



JDEA ニュースレター

〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内
TEL : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341 <https://jdea.jp>
発行人 田口則宏理事長/編集・広報委員会

CONTENTS

フィジカル AI 時代の歯学教育	1
第 45 回日本歯科医学教育学会学術大会報告	2
令和 7 年度委員会報告	4
各賞受賞者	11
学会誌第 42 巻 2 号巻頭言	11
会務報告	12

フィジカル AI 時代の歯学教育

日本歯科医学教育学会理事長 田口 則宏

令和 8 年の夏は熊本地震およびそれに続く千葉県、石川県、福井県の豪雨と、例年以上に大きな災害が続いております。災害で被害に遭われた皆様、災害で日常生活が途絶えてしまわれた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。猛暑、酷暑の季節はそうでなくても災害級の暑さであり、被災された皆様のご苦労は察するにあまりあります。一日も早い復旧をお祈りするとともに、少しでも穏やかな日常生活が戻ってきますことを祈念しております。

2026 年 8 月、中国・北京で開催された世界ヒューマノイドロボット競技大会にて、AI を駆使したヒト型ロボットが 100 m 走で、人間 (ウサイン・ボルト氏) が持つ世界記録 9 秒 58 を大幅に上回ったと報じられました。この技術は「フィジカル AI (Physical AI)」と呼ばれ、現在われわれが身近に使用することが多くなった生成 AI の先にある技術として注目を集めており、またその言葉を耳にする機会も増えてきています。

フィジカル AI とは、AI が現実世界を認識し、状況を判断し、ロボットなどを介して実際の動作につなげる技術を指します。生成 AI が主としてデジタル空間

の情報を扱ってきたのに対し、フィジカル AI は現実空間における「認識・判断・行動」を一体化する点に特徴があります。自動運転や産業用ロボットなどが代表的な応用領域ですが、医療、そして歯科医療とも親和性が高い技術であるといわれています。

歯科医療は、診断や治療計画の立案だけでなく、歯の切削や抜歯、補綴装置の製作など、きわめて精緻な手技を必要とします。現在、すでに口腔内スキャナー、CAD/CAM、画像診断支援 AI などデジタル技術を活用した診療が急速に普及しています。これらに高度なセンサーや AI が統合されれば、これまで歯科医師自身が行ってきた診療行為の一部を AI が支援し、場合によっては実際の動作まで担う時代が訪れる可能性すらあるようです。

この変化は、歯学教育にも大きな可能性を示唆します。たとえば、学生が臨床能力試験で人工歯を切削する課題を考えてみましょう。従来は、形成された人工歯を評価者が観察し、その完成度を評価していました。しかし、AI とセンサーを備えたシミュレーターを用いれば、バーの角度や移動速度、切削量、加えた力

などを記録し、形成にいたる「プロセス」そのものを分析することが可能になると考えられます。さらにAIが熟練者との違いを解析し、一人ひとりの学生に適したフィードバックを行うことも可能となります。これは、歯科における臨床技能教育のあり方を大きく変える可能性を秘めています。

ここでわれわれが考えなければならないのは、AIやロボット技術が高度化したときに、「歯科医師には何が求められるのか」という問いです。AIが画像を解析し、治療の選択肢を提示し、ロボットが精密な処置を支援するようになったとしても、患者の背景や価値観を理解し、最適な治療方針を患者とともに考え、その結果に責任を持ち、患者に寄り添う、ということは歯科医師の重要な役割です。また、AIが提示した情報が本当に妥当なのかを吟味し、どこまでAIに委ね、何を人間が担うべきかを判断する能力も必要になります。プロフェッショナリズム、コミュニケーション、倫理的価値判断、心理社会的視点、そして患者を総合

的に捉える力は、むしろこれまで以上に重要になってくると考えられます。

これからの歯学教育には、「AIを使える歯科医師」を育てるだけでなく、「AIに何を委ね、何を人間が担うべきかを判断できる歯科医師」を育てる、という視点が求められるようになると思います。

フィジカルAIが歯科医療をどこまで変えていくのか、現時点では全くの未知数です。ただ、技術の進歩を待ってから教育を変えるのではなく、将来の歯科医療を見据えながら、そこで必要となる能力を考え、教育のあり方を議論していくことは、歯学教育に携わる私たちの重要な役割であると考えます。

生成AIからフィジカルAIへ技術が進歩すればするほど、私たちは改めて「歯科医師だからこそできることは何か」を問い直すことになります。その問いを会員の皆様と共有し、これからの歯科医療を支える人材をどのように育てていくのか、皆様とともに考えていきたいと思っています。

第45回日本歯科医学教育学会総会および学術大会を終えて 「人生100年時代の歯科医学教育 ～Innovations for Sustainability～」

大会長・大阪歯科大学理事長・学長 川添 堯彬

第45回日本歯科医学教育学会総会および学術大会は、大阪歯科大学が主幹校となり開催いたしました。会期は2026年8月21日（金）・22日（土）、会場は大阪歯科大学楠葉キャンパス、実行委員長：山本一世教授、準備委員長：益野一哉教授をはじめ、歯学部、医療保健学部、看護学部の大学内教職員で大会の運営にあたりました。今回の大会テーマは、「人生100年時代の歯科医学教育～Innovations for Sustainability～」を掲げました。参加人数は504名で、特別講演2題、会長講演2題、コンセンサス・カンファレンス、特別セッション、シンポジウム、教育講演、加えて一般口演として口演発表が27題、ポスター発表が101題と学生セッション9題でした。

1日目の特別講演1では東京歯科大学学長の片倉朗先生に「留年させない教育を目指して」というタイトルでご講演いただき、東京歯科大学では教養課程ではリメディアル教育を通じて大学での学び方と考え方、医療につながるコミュニティを、また3年次の知識を統合し課題を解決するワークショップ、5年次臨

床実習中にも基礎系科目講義や総括評価の継続など多くの具体的な事例を教えてくださいました。またコンセンサス・カンファレンスでは8月20日（木）に開催された「和漢薬教育に関するミニマムリクワイアメントを議論するワークショップ」で得られた現時点でのコンセンサスについて報告と、医学部および歯学部での漢方医学教育の変遷・現状・展望についてご講演いただきました。特別セッションでは『「ファシリテーター養成セミナー 第13回フォローアップセッション」～教育に携わるすべての方へー当たり前だと思っていた指導を見直すヒントを探しに～』という演題で岐阜大学医学教育開発研究センターの川上ちひろ先生に、看護領域で得られた知見をもとに歯科領域の診療・臨床実習における教育の課題や視点について御講演いただきました。さらに会長講演として、日本歯科医師会の高橋英登会長に歯科医療現場の実情や、そこから考えうる今後の歯科医学教育の方向性を、日本歯科医学会の小林隆太郎会長に、さまざまな研究に基づいた「口腔健康管理」の重要性や、人生100年時代の

それぞれのライフ・ステージに応じた全身状態を含めた「口腔健康管理」、さらにそれを実現するための歯科医学教育をご提示いただきました。

2日目の特別講演2では厚生労働省医政局歯科保健課課長の小嶺裕子先生に、統計に基づいた人生100年時代の人口予測や、今後必要となる国民への歯科医療の内容や地域偏在の歯科医師数の是正などさまざまな課題を挙げていただきました。またシンポジウムとして、去年に引き続き「歯科医学教育におけるスポーツ歯学の方向性」について、日本スポーツ歯科医学会との共催企画が実施され、大学の学部教育、大学院教育、



大会長挨拶：川添堯彬



A 会場



B 会場



ポスター会場



▼日本歯科医師会会長講演：高橋英登先生



日本歯科医学会会長講演：小林隆太郎先生



▼特別講演1：片倉 朗先生



▼特別講演2：小嶺祐子先生



集合写真（田口理事長，大阪歯科大学スタッフ）

歯科衛生士・歯科技工士教育などについて闊達な議論が行われました。なおスポーツ歯学についてのシンポジウムは来年度も継続される予定です。教育講演では「デジタル歯科医療における教育カリキュラムの構築」として日本デジタル歯科学会の末瀬一彦先生に、また「大阪歯科大学における歯科医療分野に特化した医療情報教育カリキュラムの変遷」として大阪歯科大学の今井弘一先生にご講演いただきました。歯科医学教育・医療におけるDXやAIのリテラシーの構築は喫緊の課題となっていることから、たいへん有意義な内容でした。

一般口演、ポスター発表でも活発な議論がなされ、

特に学生セッションでは9題もの発表があり学部生にとっても貴重な経験になったと思います。

最後に、特別講演，会長講演，コンセンサス・カンファレンス，特別セッション，シンポジウム，教育講演でご講演いただいた先生方ならびに座長の先生方，一般演題，学生セッションで発表してくださった先生方，学生達ならびに座長の先生方，さらにご参加いただいた皆様，協賛や後援いただいた企業や団体の皆様に感謝いたします。また，この学術大会の準備に際し，理事会，学術委員会の先生方のご指導ならびに関係各位のお力添えに厚く御礼申し上げます。

令和7年度 委員会報告

学術委員会報告

委員長 森川 和政

1. ワークショップの開催

テーマ：和漢薬教育に関する「ミニマムリクワイアメント」を議論する

会期：2026年8月20日（木）（第45回学術大会前日）

会場：大阪歯科大学楠葉キャンパス

概要：近年，和漢薬は歯科領域においても治療の選択肢の一つとして注目されており，歯科医師国家試験にも出題されるようになってきている。しかしながら，歯科大学・歯学部における和漢薬教育の実施状況や内容は大学によって異なり，実態が十分に把握されていない。そこで今回，全国の歯科大学・歯学部における和漢薬教育の現状を明らかにし，それらの内容や体制，課題などを把握することを目的として，和漢薬教育にかかわる責任者，またはこれに関係したカリキュラム

作成に携わる歯科大学・歯学部教員が一堂に会し、和漢薬教育に関する「ミニマムリクワイアメント」を議論するワークショップを開催した。

2. 第45回学術大会関連

1) 学術大会におけるコンセンサス・カンファレンス
テーマ：歯学部における漢方医学教育のミニマムリクワイアメント

演者：松野智宣先生（日本歯科大学附属病院口腔外科）、米永一理先生（日本大学歯学部摂食機能療法学講座）、山口孝二郎先生（日本歯科東洋医学会会長）

概要：大会前日のワークショップで得られたプロダクトを踏まえ、29 歯科大学・歯学部の和漢薬教育における共通学修目標を提案するとともに、その背景となっている医科領域での和漢薬教育の変遷についてご紹介いただいた。併せて、日本歯科東洋医学会の視点から歯学教育に対するご意見をいただくとともに、教育現場において長く和漢薬教育に携わってこられたエキスパートからのご提言をいただいた。

2) その他

学術大会における演題募集に際し、①前回大会より運用を開始した自己チェックリストの修正、②共同演者（海外機関の教員・学生）の対応を行った。

3. その他

FDI 政策声明案について委員会内で検討を行った。

企画将来構想委員会報告

委員長 秋山 仁志

1. はじめに

一般社団法人日本歯科医学教育学会における企画将来構想委員会は、本学会の持続的な発展と、急速に変化する社会情勢や医療環境に対応した歯科医学教育のあり方を探求すべく、中長期的な視点に立った多様な企画立案および将来構想の審議を担っております。

2025 年 9 月から 2026 年 7 月までの活動期間におきましては、本学会の基盤強化ならびに次世代の歯科医学教育を担う人材の育成・支援を目指し、体制の整備および具体的な啓発・普及活動を精力的に推進してまいりました。以下に、本期間における主な活動実績および今後の展望についてご報告申し上げます。

2. 報告事項

1) 委員会構成員の確立と討議体制の強化

今後の本学会における企画・将来構想委員会の活動をより強力かつ円滑に推進するため、学会における各種企画や将来的な事業構想を多角的な視点から精査・討議する重要な機関として、本委員会の構成員の確立と組織体制の整備を行いました。これにより、学術大会や各種ワークショップをはじめとする本学会のコア事業に対し、機動的かつ戦略的な助言・立案を行える盤石な基盤が整備されました。

2) 学会入会促進および広報・啓発活動の実施

今後の本学会活動の一層の活性化、次世代の歯科医学教育の推進を目的として、キャリア形成支援、最新の教育知見・手法の共有ならびに会員相互のネットワーク構築の場を提供すべく、積極的な入会促進事業を展開いたしました。これらの取り組みを通じ、若手教育者や研究者をはじめとする多角的な人材の入会を促し、学会全体の活性化とコミュニティの拡大を図っております。

3. 協議事項

1) 今後の本委員会における活動内容と方向性の検討

本期間中、今後の本委員会が果たすべき役割や具体的に取り組むべき新規事業のあり方について協議を重ねました。具体的には、ICT・AIなどを活用した先端的教育手法の導入、若手教員のキャリアパス支援など、変化する教育ニーズに即した長期的な戦略についての論点整理を行っております。

4. 委員会開催記録

本期間中、迅速かつ密な意見交換を実施するため、メール会議による委員会を開催いたしました。

5. 今後の活動予定

今後は第45回学術大会終了後に次回委員会の開催を予定しております。学術大会での成果や参加者からのフィードバックを検証するとともに、次年度に向けた新たな企画・将来構想の具体化に向けた協議を進めてまいります。

編集・広報委員会報告

委員長 上田 貴之

編集・広報委員会は、上田貴之委員長、山本松男副委員長、石黒一美委員、大野由夏委員、鯨岡聡子委員、角忠輝委員、瀧田慎也委員、森田匠委員、諸富孝彦委員、竜正大委員から構成されている。

1. 学会誌の発行

日本歯科医学教育学会雑誌第41巻1～3号ならびに第42巻第1～2号を発行した。また、各号を日本歯科医学教育学会ホームページならびにJ-stageに公開した。

2. JDEA ニュースレターの発行

JDEA ニュースレター 2026 年第2巻第1～2号を発行した。JDEA ニュースレターは学会ホームページにて一般閲覧可能である。

3. 編集委員会の開催

第45回学術大会期間中の2026年8月20日（金）に対面にて、また2025年10月8日（水）、2026年1月28日（水）、5月25日（月）、9月28日（月）にWebにて編集・広報委員会を開催した。各号の投稿論文に対し、1論文につき委員会委員2名または委員会委員と代議員の計2名により査読を行い、査読結果について編集委員会で協議した。作業としては、掲載可否の判断、再査読・再投稿などの必要性、さらに査読コメント内容の確認などを行った。また、より広い見地からの査読を行うため、日本歯科医学教育学会雑誌の査読依頼対象者を委員会委員だけでなく代議員にも広げた。代議員の先生方におかれましては、査読へのご協力をお願いする所存である。

4. 優秀論文候補の選出

日本歯科医学教育学会優秀論文賞の候補論文を1論文選出し、その結果を上程した。

5. 歯科医学教育白書 2025 年版の編集

歯科医学教育白書 2025 年版の発行に向けて、各大学、病院等へアンケートを実施するとともに、白書作業部会を2回開催し、原稿の確認を行った。

教育国際化推進委員会報告

委員長 益野 一哉

1. 第45回日本歯科医学教育学会学術大会（2026年8月21、22日、大阪）において、教育国際化推進委員会の副委員長である鶴田潤先生に「JDEA 国際交流の歩み 歯科医学教育の国際化」について講演をしていただいた。そのなかで世界の歯科医学教育学会（ADEA/ADEE/SEAAD）との国際連携とその重要性を日本歯科医学教育学会の先生方にお伝えし、日本の歯科医学教育が世界標準に則っていることや優れている点、劣っている点を指摘していただいた。

2. 全国29校の歯学部・歯科大学のアンケート調査に基づき、現在の海外の大学との交流および留学生の教育の現状について考察を行った。考察については2025年度版歯科医学教育白書に掲載予定である。

3. SEAAD 2026を東京科学大学が主幹し、本年度は日本で開催される予定である（2026年9月30日現在）。日本歯科医学教育学会理事長の田口則宏理事長と教育国際化推進委員会のメンバーがSEAADのCouncil meetingに参加し、情報の収集および交流を深めたいと考えている。

教育国際化推進委員会は主にアメリカ、ヨーロッパ、アジアの歯科医学教育学会に参加し、世界の歯科医学教育のWorld Standardを決める際に日本もその一翼にならなければならないと考えている。それには世界の歯科医学教育の現状を日本の先生方にお伝えすると同時に、日本からも世界に発信していかなければならないと感じている。



教育能力開発委員会報告

委員長 鶴田 潤

本委員会の主な事業として、「歯科医学教育者のためのワークショップ」(富士研実行部会担当)、「歯科医療人のためのファシリテーター養成セミナー」(ファシリテーター養成セミナー実行部会担当) および「ファシリテーター養成セミナー フォローアップセッション」(ファシリテーター養成セミナー実行部会担当)の企画、実施を行っている。令和7年度(2025年度)は、これらの事業すべてを対面形式で開催した。実施結果について、以下に詳細を記載する。

1. 「第15回歯科医学教育者のためのワークショップ」の開催

「第15回歯科医学教育者のためのワークショップ」は2025年12月2日(火)から5日(金)に対面方式で、千葉県千葉市のセミナーハウス クロス・ウェーブ幕張において開催された。

本ワークショップについては、厚生労働省補助事業「令和7年度第1回プログラム責任者講習会」の内容を含むプログラムを実施したことから、例年の開催内容から変更を行い、「特徴のある臨床研修カリキュラム」



第15回歯科医学教育者のためのワークショップ(2025年12月2日(火)~5日(金))



第17回歯科医療人のためのファシリテーター養成セミナー(2026年3月7日(土))

「トラブル事例に対する研修管理委員会の役割」「指導歯科医に対する評価」などの内容を前半2日間で、後半2日間で、第5回から組み込んでいる「アウトカム基盤型教育」をテーマとして扱うプログラムとした。ワークショップ実施にあたり文部科学省、厚生労働省からは「共催」名義をいただいた。今回のワークショップ参加者要件として、厚生労働省開催指針に則った「歯科医師臨床研修指導歯科医講習会」の受講修了者とし、定員は従前どおり40名としたが参加者は30名であった。内訳は、性別については男性26名、女性4名、所属については私立大学14名、国立大学10名、医科大学1名、診療所5名であった。ワークショップ運営については、田口則宏理事長をディレクターとし、富士研実行部会委員である秋山仁志委員、大澤銀子委員、黒川弘康委員、鈴木一吉委員、多田浩晃委員、鶴田 潤部会長、和田尚久委員、平田創一郎部会長(歯科医師臨床研修指導歯科医講習会(プログラム責任者講習会)実行部会)で担当した。また外部講師として、井上昂也先生(厚生労働省医政局歯科保健課課長補佐)、松本晴樹先生(文部科学省高等教育局医学教育課企画官)のご協力をいただいた。ワークショップの各種作業については、過去のオンライン開催で得られたノウハウを駆使し、プロダクト作成やアンケート入力等はすべてPCやスマートフォンを用いることにより作業の効率化を図った。その結果、昨年と同様に作業は円滑に進み、無駄の少ない運営が可能となった。新たな研修施設での実施であったため、運営において不安点も多かったが、全般を通して、たいへんスムーズな運営となり、参加者にとっても有意義なワークショップを実施できたと考えている。次年度からは、従来の富士研の実施形式に戻る予定であるが、ワークショップの事務扱い担当部署の変更など、従来の運営方法の改善も予定されている。



「ファシリテーター養成セミナー第13回フォローアップセッション」(2026年8月21日(金))

本事業が日本の歯科医学教育学会の基幹取り組みとして29校の機関会員校を中心とした日本の歯科医学教育の充実、発展に貢献できるよう、内容の検討を進め、さらなる改善に努めていく予定である。

2. 「第17回歯科医療人のためのファシリテーター養成セミナー（行動変容編）」の開催

本セミナーは2026年3月7日（土）9:30～16:40（1日間）、会場は愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において対面方式で開催された。実施については、ディレクターは教育能力開発委員会の鶴田潤委員長、タスクフォースは、ファシリテーター養成セミナー実行部会より、鈴木一吉部会長、角忠輝委員、上原任委員、長谷由紀子委員、寺田知加委員、秋山恭子委員の6名が担当し、スーパーバイザーとして藤崎和彦先生（岐阜大学医学部名誉教授）、特別講師として脇忠幸先生（関西学院大学ハンズオン・ラーニングセンター准教授）、コンサルタントとして木尾哲朗先生の協力をいただいた。参加者は全国の歯科関連の教育施設から24名が集まり、4グループに分かれて作業が展開された。参加者の内訳は、男性13名、女性11名で、所属は国公立歯学部3名、私立歯学部14名、診療所5名、公立歯科衛生士養成校1名、私立歯科衛生士養成校2名であった。13のセッションでは、「教育におけるファシリテーターの役割」「行動変容とファシリテーション」「積極的傾聴」「振り返りとその共有」「動機づけ」などについて、レクチャーやグループセッションが行われ、対面ならではの活発な討論やロールプレイが行われた。事後アンケートの結果からは、参加者の熱心な学習意欲と学習効果が確認され、本セミナー事業の継続、さらなる充実が求められていることが明らかとなり、次年度からの2日間での実施の検討を行うこととなった。

3. 「ファシリテーター養成セミナー 第13回フォローアップセッション」の開催

2010年度にファシリテーター養成セミナー受講経験者の要望を受け、医療コミュニケーション教育に携わる方々の情報交換・交流の場としてフォローアップセッションを開始した。2011年度の第2回からは、コミュニケーションや教育の分野に精通している方を講師としてお招きし、ファシリテーター養成セミナー参加者をはじめとする教員や指導者の教育能力向上に努めている。第13回目となる今回は、第45回日本歯科医学教育学会学術大会「特別セッション」として大会

プログラムの一部に組み込まれ、2026年8月21日（金）14:00～15:30に開催され、セミナー受講経験者以外の方も含め、より多くの大会参加者の出席が可能となった。特別セッションは「学習者と教育者の見えている世界—後輩育成を再考する視点」として、特別講師に、川上ちひろ准教授（岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻医学教育学/岐阜大学医学教育開発研究センター）をお招きした。座長は鈴木一吉部会長と秋山恭子委員が担当した。次年度についても、学術大会の特別セッションとしての実施を継続する予定である。

教育方略委員会報告

委員長 仲野 和彦

教育方略委員会では、歯科医学教育における倫理・プロフェッショナリズム教育、多職種連携教育、地域包括ケアシステムなどを重要な課題として、教育方略の充実に向けた活動を進めています。

令和8年8月22日（土）に、第45回日本歯科医学教育学会総会および学術大会に併せて、教育方略委員会「倫理・プロフェッショナリズム教育」自由研究集会を開催しました。今回は「歯科医師臨床研修のプロフェッショナリズム研修について語ろう」をテーマとし、21名の先生方にご参加いただきました。

はじめに、本研究集会の趣旨ならびに歯科医師臨床研修におけるプロフェッショナリズム教育に関する情報提供を行った後、参加者を4グループに分けてグループディスカッションを実施しました。各グループでは、参加者から実際の教育・研修現場における事例を提示していただき、それぞれの事例について、プロフェッショナリズムの観点からどのように捉え、どのように研修医への教育・指導につなげていくべきかについて意見交換を行いました。その後、各グループから討議内容を発表し、全体で質疑・総合討論を行いました。

限られた時間ではありましたが、各施設における取り組みや課題、指導上の工夫などについて活発な議論が行われ、歯科医師臨床研修におけるプロフェッショナリズム教育の現状と課題について貴重な情報を共有する機会となりました。また、具体的な事例をもとに議論することにより、プロフェッショナリズムを知識として教授するだけではなく、日々の臨床研修のなかでどのように育み、評価していくかを考えることの重要性が改めて認識されました。

本研究集会で得られた意見や情報を今後の委員会活

動に活かし、歯科医学教育における倫理・プロフェッショナルリズム教育のさらなる充実に向けて検討を進めてまいります。

教育評価委員会報告

委員長 小見山 道

1. 第119回歯科医師国家試験に関する学生アンケート調査の実施

1) 対象

全国29校の歯科大学学長・歯学部長を通じ、第119回歯科医師国家試験を受験した各大学の令和7年度卒業生を主たる対象者として回答を依頼した。

2) 実施方法・時期

歯科医師国家試験に関する13項目、計42問の意見・感想・コメントを問う「第119回歯科医師国家試験に関する受験生へのアンケート調査」をWeb方式にて実施した。

3) 回答状況

標記アンケートについて、依頼した全国29校のうち、28校の学生から回答がなされ、回答者総数は1,324名であった。これは、令和6年度より185名多かった。近年、アンケートの依頼を事前に送付して、各歯科大学・歯学部の卒業式前後のスケジュールに組み込んでいただくよう依頼している。その結果、回答者数が増加したものと思われる。今後も、回答の質の担保のため、引き続き回答者数の向上に努めていく。

4) 結果の公表

報告書を取りまとめ、歯科大学学長・歯学部長会議に提出するとともに、全歯科大学学長、歯学部長に送付および本学会ウェブサイトに掲載する予定である。

2. 第119回歯科医師国家試験に関する教員アンケート調査の実施

1) 対象

本学会機関会員校を対象に、歯科医師国家試験に関する教員アンケートへの回答を依頼した。

2) 実施方法・時期

5項目、計20問の「日本歯科医学教育学会 機関会員校対象 歯科医師国家試験に関する教員アンケート」をWeb方式にて実施した。

3) 回答状況

標記アンケートについて、依頼した全国29校すべてから回答がなされた。

4) 結果の公表

報告書を取りまとめ、歯科大学学長・歯学部長会議に提出するとともに、全歯科大学学長、歯学部長に送付および本学会ウェブサイトに掲載する予定である。

教育一貫性委員会報告

委員長 松坂 賢一

「卒前教育、歯科医師臨床研修、生涯研修のシームレスな学修のあり方の検討」に関して、「臨床研修終了後の進路に関する調査研究」の方略について委員からの意見をメール会議にて集めた。臨床研修修了後の進路調査の方法および分析について検討する。また、厚生労働省が行っている歯科医師研修修了者アンケート調査の結果を分析する案も出ている。

機関会員委員会報告

委員長 中原 賢

機関会員委員会は、機関会員委員会に関する細則に則り、毎年、学術大会・総会の開催時に委員長がこれを召集、開催することになっている。そのため、令和7年度は、2025年8月28日に明海大学歯学部的主管で開催された第44回日本歯科医学教育学会学術大会前日に機関会員委員会を開催した。

委員会では、現在の機関会員代表者および各校の会員数についての報告の後、第45回日本歯科医学教育学会学術大会の山本一世実行委員長から次期大会に関する説明があった。続いて、藤井一維常務理事（当時）から、歯科大学学長・歯学部長会議等の他類似会議と比較した本委員会の開催意義についての話があった。そのなかで、機関会員代表者に対して、本学会が主体となって行う次期モデルコアカリキュラム改訂への協力、歯科医学教育者のためのワークショップといった本学会主催の講習会等に対する各校の積極的な参加と適正な参加者選抜への協力が要請された。

報告後の質疑応答が活発に行われていたことから、機関会員代表者に対し、本委員会の開催意義などの重要性が認識されたものとする。

利益相反委員会報告

委員長 林 誠

今期の利益相反委員会では、本学会の事業遂行にかかわる利益相反について、透明性を確保し、適切に管理することを目的として活動を行った。

本学会では、会員が所定の利益相反申告書に基づいて利益相反に関する事項を申告し、必要に応じて委員会において審議するとともに、その内容を適切に開示・公開する体制を整備している。今期もこれまでと同様に、本学会役員および各委員会委員に利益相反申告書を配信し、提出された申告書について、事務局と連携して確認・管理を行った。

また、学術大会における発表および講演についても、発表者・講演者の利益相反状態が適切に開示されるよう、事務局と連携して対応した。

利益相反の適切な管理は、学会活動の公正性と透明性を確保し、会員ならびに社会からの信頼を維持するうえで重要である。今後も、委員各位および事務局の協力を得ながら、学会活動を取り巻く状況の変化にも留意し、適切な利益相反管理体制の維持・運用に努めていきたい。

なお、今期の本委員会は、佐藤和朗委員（岩手医科大学歯学部）、本田雅規委員（愛知学院大学歯学部）、宮脇卓也委員（岡山大学歯学部）、小林幹宏委員（昭和医科大学歯学部）、林 誠（日本大学歯学部）の5名で構成している。

特命委員会 歯科医師臨床研修指導歯科医講習会 （プログラム責任者講習会）実行部会

部会長 平田 創一郎

本特命委員会は、厚生労働省の公募事業である令和7年度歯科医師臨床研修指導医講習会（プログラム責任者講習会）実施団体に選定され、プログラム責任者講習会の企画・実施のために設置された。以下のとおり2回の講習会を実施した。なお、本研修会は歯科医師臨床研修制度の改正に伴い、プログラム責任者に受講が義務づけられている講習会である。

【第1回プログラム責任者講習会】（第15回歯科医学教育者のためのワークショップと併催）

会期：令和7年12月2日（火）～5日（金）

会場：クロスウェーブ幕張（千葉市）対面開催

参加者：24名

【第2回プログラム責任者講習会】

会期：令和8年2月13日（金）～15日（日）

会場：オンライン開催

参加者：28名

本講習会では、特徴ある研修カリキュラム、プログラム責任者の役割、トラブル事例に対する対応、超高齢社会における歯科医師臨床研修、指導歯科医に対する評価、コミュニケーションスキル、ポートフォリオ等の研修を行った。

特命委員会 臨床研修活性化推進事業 指導歯科医講習会の講師養成のための 研修会実行部会

部会長 則武 加奈子

本実行部会では、厚生労働省からの委託事業として、指導歯科医講師養成研修会の実施を担当している。本研修会は、指導歯科医講習会の講師となる歯科医師を養成することを目的として実施されている。令和3年度より開始され、令和7年度は、3日間の対面研修会（開催期間：令和7年10月24日から26日、開催場所：クロス・ウェーブ船橋）およびオンライン研修会（開催期間：令和8年1月13日から15日）を、それぞれ1回ずつ開催した。

本研修会の参加対象者は、歯科医師臨床研修施設に勤務する歯科医師であり、①歯科医師臨床研修指導歯科医講習会において企画立案者（ディレクター）または世話人（タスクフォース）を務める予定の者、かつ、②指導歯科医講習会（厚生労働省医政局長が策定する指導歯科医講習会の開催指針に則って開催されたもの）を修了している者としている。

本研修会では、指導歯科医講習会で取り扱われるカリキュラム・プランニングをはじめとする各テーマについて、指導歯科医講習会のタスクフォースとして求められる役割や在り方を、Fishbowl法を用いて疑似体験するワークショップ形式の研修を実施した。

特命委員会 臨床研修活性化推進事業 e-ラーニング教材の検討および作 成、運営実行部会

部会長 平田 創一郎

本特命委員会は、厚生労働省の公募事業である令和7年度臨床研修活性化推進特別事業『指導歯科医フォ

ローアップ研修のe-ラーニング教材の改訂と研修の実施』実施団体に本学会が選定され、その遂行のために設置された。令和8年度から指導歯科医にフォローアップ研修が義務づけられることから、新たなコンテンツ作成を行った。なお本学会では指導歯科医フォローアップ研修のe-ラーニングを令和4年度から実施しており、今年度はコンテンツの見直しを行いつつ、21名の修了者を新たに認定し、リニューアルのため令和8年2月27日をもって一旦終了した。

各賞受賞者

優秀論文賞

小柳圭史（日本歯科大学）
Basic Life Support コースにおける HeartCode®
2025 BLS Complete を用いた教育の有効性に関し
ての調査
（日本歯科医学教育学会雑誌 第41巻1号）

優秀論文賞

藤本暁江（福岡歯科大学）
Changes in General and Dental-Specific Ageism
Following Home-Visit Clinical Training With Older

Adults : A Quasi-Experimental Pre-Post Study
(Journal of Dental Education)

歯学教育優秀賞

大戸敬之（鹿児島大学）

教育システム開発賞

佐藤充弘（東京科学大学）
AI 模擬患者による 歯科医療面接訓練アプリケー
ションの開発と実施可能性の検討

第42巻2号巻頭言：歯科医学教育の未来を見据えた教育方略

理事 仲野 和彦

昨年度より、日本歯科医学教育学会理事ならびに教育方略委員会委員長を務めております。委員長を拝命してから約1年が経過しましたが、その間、歯科医学教育を取り巻く環境の変化と、本学会が担う役割の大きさを改めて認識しております。

近年、歯科医学教育は大きな転換期を迎えていると実感しています。少子化や人口減少、医療の高度化、多職種連携の進展、さらにはDX・AI技術の急速な発展など、教育現場を取り巻く環境は大きく変化しています。また、学生の価値観や学習スタイルも多様化しており、単に知識や技術を伝達するだけではなく、学生自身が主体的に考え、学び続ける力を育成することがこれまで以上に重要になってきていると考えています。

そのような時代だからこそ、「何を教えるか」に加え、「どのように学び、どのように成長し続けるか」を

重視した教育方略が必要であると考えています。歯科医療は生涯学習を前提とした専門職であり、卒前教育、卒後研修、生涯研修を連続性のあるものとして捉えていく視点が不可欠です。

教育方略委員会では、これまで前委員長である平田創一郎先生のもと、歯科医学教育に資する学修教材の整備や共有、教育実践に関する議論の場づくりなど、多くの重要な取り組みが進められてきました。特に、教育現場で実際に活用可能な教材を学会として共有する取り組みは、各大学・教育機関の教育の質向上に大きく寄与する取り組みであると考えます。

また、教育方略委員会では、本年8月に開催される第45回日本歯科医学教育学会総会・学術大会において、「歯科医師臨床研修のプロフェッショナルリズム研修について語ろう」をテーマとした自由研究集会を予定しております。知識や技術だけではなく、倫理観、

コミュニケーション能力、社会的責任感なども強く求められる時代になっています。今回の自由研究集会が、臨床研修におけるプロフェッショナリズム教育の現状や課題について議論を深める機会となり、今後の歯科医学教育を考える契機となることを期待しております。

歯科医学教育においては、CBT・OSCEの公的化やアウトカム基盤型教育の導入など、教育の質保証に関する整備が着実に進んでいます。歯科医師養成において、一定水準の知識・技能・態度を保証することの重要性は今後さらに高まっていくものと思われます。また、歯科医療を取り巻く社会的要請が変化するなかで、教育内容や評価方法についても継続的な見直しが求められる時代になっていると感じています。

一方で、教育・研究・診療を同時に担う大学教員に求められる役割は年々増大しており、教員の負担増加や人材不足など、多くの課題も存在しています。また、学生の多様化に伴い、学修者中心教育やアクティブラーニングなど、新たな教育手法への対応も必要となっています。そのようななかで、教育方略委員会には、全国の教育現場で実践可能な教育方法や教材、評価手法を共有し、各大学・教育機関を横断的につなぐ役割が求められていると考えています。

教育のデジタル化やAI技術の活用は、今後の歯科

医学教育に大きな変革をもたらす可能性があります。しかし、どれほど技術が進歩しても、教育の本質は「人を育てること」にあると思います。歯科医療は患者さんとの信頼関係の上に成り立つ医療であり、人間性や倫理観は、デジタル技術だけで育成できるものではありません。新しい技術を積極的に活用しながらも、人間性や倫理観を育むという教育の本質を見失わないことが不可欠であると考えています。

また、歯科医学教育を取り巻く課題は、一大学だけで解決できるものではありません。私は大阪大学歯学部長として機関会員代表者を務める立場でもあります。日本歯科医学教育学会は、各大学・教育機関をつなぎ、日本全体の歯科医学教育の方向性を議論するきわめて重要な学会であると感じています。個々の大学の取り組みだけでは解決できない課題も多く、だからこそ本学会を通じた情報共有や連携が不可欠だと考えます。

歯科医学教育は未来の歯科医療を支える基盤であり、教育を通じて育まれた人材が、将来の地域医療や社会全体を支えていくことになります。教育方略委員会として、会員の皆様とともに「学び続ける歯科医学教育」の実現を目指し、よりよい歯科医学教育の実現に向けて取り組んでまいりたいと思います。

一般社団法人日本歯科医学教育学会会務報告 (2025年11月1日～2026年10月31日)

1. 会員数(2026年10月31日現在)
1,570名(賛助会員7社、機関会員29校を含む)
2. 役員構成(2026年10月31日)
理事長: 田口則宏
副理事長: 藤井一維
常務理事: 平田創一郎, 和田尚久, 秋山仁志, 鶴田 潤
理事: 上田貴之, 益野一哉, 仲野和彦, 森川和政, 中原 賢, 小見山 道, 松坂賢一, 林 誠, 則武加奈子, 梅森 幸
監事: 木尾哲朗, 川上智史
代議員: 167名
3. 役員会
理事会を4回(2025年11月20日, 2026年2月24日, 5月18日, 8月20日), 社員総会を1回

- (2026年8月21日)開催した。
4. 第45回日本歯科医学教育学会学術大会
会期: 2026年8月21日(金)～8月22日(土)
会場: 大阪歯科大学樟葉キャンパス
大会長: 川添堯彬(大阪歯科大学理事長・学長)
○特別講演1「留年させない教育を目指して」
○特別講演2「最近の歯科保健医療の動向」
○日本歯科医学会会長講演
○日本歯科医師会会長講演
○シンポジウム「歯科医学教育におけるスポーツ歯学の方向性」
○教育講演「デジタル歯科医療における教育カリキュラムの構築」
○教育講演「大阪歯科大学における歯科医療分野に特化した医療情報教育カリキュラムの変遷」
○特別セッション「ファシリテータ養成セミナー

第13回フォローアップセッション」

～教育に携わるすべての方へ～当たり前だと思っていた指導を見直すヒントを探しに～

- コンセンサス・カンファレンス「歯学部における漢方医学教育のミニマム・リクワイアメント」

その他、ランチョンセミナー4題、一般口演27題、ポスター101題、学生セッション9題。

5. 委員会活動

○学術委員会：

- ・第46回学術大会について昭和医科大学との協議について検討した。
- ・2026年第45回学術大会において、「和漢薬教育に関する「ミニマムリクワイアメント」を議論するワークショップ」の企画を検討した。
- ・日本スポーツ歯科医学会との共同シンポジウムの企画を検討した。
- ・学術大会演題申込時の「自己チェックリスト」へ生成AI関連の項目を追加することを提示し、承認された。

○企画・将来構想委員会：

- ・将来構想案について委員会にて検討した。
- ・会員増を目指す取り組みとして、機関会員委員宛に新規入会依頼・学術学会・漢方WS案内を郵送した。
- ・今後の本学会における企画・将来構想委員会の活動を推進するために、学会の各種企画・将来構想を討議する重要な委員会として構成員を確立した。

○編集・広報委員会：

- ・学会誌およびJDEAニュースレターを発行した。
- ・優秀論文賞について、選考委員会へ推薦を行う2編を選考した。
- ・学会ホームページ内会員専用ページに、過去に発行した歯科医学教育白書を公開した。
- ・歯科医学教育白書2025年版の作成を進めた。
- ・学術著作権協会へのAI利用を伴う著作権委託について、学術著作権協会へ委託した。

○教育国際化推進委員会：

- ・アジアの各国との関係構築について検討した。
- ・第37回東南アジア歯科医学教育学会(SEAADE)との連携について検討した。
- ・第45回日本歯科医学教育学会学術大会の総会時に、SEAADE実行委員長 鶴田潤理事の講演を企画した。

○教育能力開発委員会：

- ・第15回歯科医学教育者のためのワークショップ（富士研）を2025年12月2日（火）～5日（金）、クロスウェーブ幕張にて開催した。
- ・第16回歯科医学教育者のためのワークショップの開催について、企画検討した。
- ・第17回歯科医療人のためのファシリテーター養成セミナーを2026年3月7日（土）にウインクあいちにて開催した。
- ・第18回歯科医療人のためのファシリテーター養成セミナーの開催について、企画検討した。
- ・第13回ファシリテーター養成セミナーフォローアップセッションを、第45回学術大会時に開催した。
- ・第1回基礎系歯科医学教育者のためのワークショップを企画・検討した。

○教育方略委員会：

- ・歯科医療倫理学習教材をYouTubeにて公開した。
- ・自由研究集会『歯科医師臨床研修のプロフェッショナルリズム研修について語ろう』を、第45回日本歯科医学教育学会学術大会2日目（8月22日（土））に開催した。
- ・FDI政策声明文書案を検討した。

○教育評価委員会：

- ・第119回歯科医師国家試験に関する受験生および教員へのアンケートを実施した。

○教育一貫性委員会：

- ・研修終了後の進路に関するアンケート実施について検討した。
- ・「卒前教育、歯科医師臨床研修、生涯研修のシームレスな学修のあり方の検討」に関して、「臨床研修終了後の進路に関する調査研究」の方略について委員からの意見を集めた。

○機関会員委員会：

- ・8月20日、大阪歯科大学樟葉キャンパスにて委員会を開催した。議題に沿って、2027年以降の学術大会、第16回歯科医学教育者のためのワークショップ、第119回歯科医師国家試験アンケート集計結果について報告がなされた。

○利益相反委員会：

- ・理事、委員を対象に利益相反自己申請書の提出を求めた。
- ・現在の利益相反に関する規定について検討した。

○特命委員会：

- 1) 歯科医師臨床研修指導歯科医講習会（プログラム責任者講習会）実行部会
・2025年度は2回（対面・オンライン）開催した。
・歯科医師臨床研修指導歯科医講習会（プログラム責任者講習会）について、今年度は学会として受託申請をしないこととした。
 - 2) 臨床研修活性化推進事業指導歯科医講習会の講師養成のための研修会実行部会
・2025年度は2回（対面・オンライン）開催した。
 - 3) 臨床研修活性化推進事業e-ラーニング教材の検討および作成、運営実行部会
・コンテンツの作成を進めた。
6. 機関誌発行
- 第41巻第3号を2025年12月20日に発行
第42巻第1号を2026年4月30日に発行
第42巻第2号を2026年8月20日に発行
第42巻第3号を2026年12月20日に発行予定
7. 委託事業
- 厚生労働省委託事業：令和7年度の開催実績は以下のとおり。
- ・令和7年度臨床研修活性化推進特別事業実施団体（受託期間：2025年9月24日～2026年3月31日）

指導歯科医講習会講師養成研修会の開催

開催日：第1回 2025年10月24日（金）～10月26日（日）

第2回 2026年1月13日（火）～1月15日（木）

会 場：第1回 クロス・ウェーブ船橋

第2回 オンライン開催

指導歯科医講習会の講師養成研修（e-ラーニング）

期 間：2022年3月25日（金）～2026年2月28日（土）

指導歯科医フォローアップ研修（e-ラーニング）

期 間：2022年3月25日（金）～継続実施

- ・令和7年度歯科医師臨床研修指導医講習会（プログラム責任者講習会）実施（受託期間：2025年8月22日～2026年3月31日）

プログラム責任者講習会の開催

開催日：第1回 2025年12月2日（火）～12月5日（金）

第2回 2026年2月13日（金）～2月15日（日）

会 場：第1回 クロスウェーブ幕張

第2回 オンライン開催

**一般社団法人日本歯科医学教育学会
第8期(2025年-2026年)決算報告書
(2025.6.1～2026.5.31)**

	項 目	予 算	決 算	執行率%	備考
歳入の部	前 期 繰 越 金	47,560,676	47,560,676	-	
	新 入 会 費	100,000	136,000	136.0%	1,000円×136名
	年 度 会 費	15,085,000	15,728,000	104.3%	過年度会費1,114,000円、本年度会費 14,505,000円、次年度会費 109,000円
	機 関 会 員 会 費	1,450,000	1,450,000	100.0%	50,000円×29校
	賛 助 会 費	450,000	400,000	88.9%	50,000円×8社
	研 修 会 参 加 費	5,460,000	4,760,000	87.2%	第15回歯科医学教育者のためのワークショップ 3,412,000円 第17回歯科医療人のためのファシリテータ養成セミナー 1,348,000円
	掲 載 料	1,000,000	952,448	95.2%	41巻1号180,206円、41巻2号 173,888円、41巻3号 482,050円、42巻1号 113,304円、その他 3,000円
	総 会 ・ 学 術 大 会 収 入	5,000,000	7,574,000	151.5%	第44回大会(明海大学)
	日 歯 学 会 補 助	396,000	396,000	100.0%	日本歯科医学会専門分科会 2025年度補助金
	広 告 料	60,000	0	0.0%	
	雑 収 入	250,000	244,406	97.8%	利息 84,591円、雑誌購読料・バックナンバー 15,000円、学術著作権協会 66,207円、医学中央雑誌刊行会 6,600円 プロフェッションワークブック印税(707冊) 72,008円
	厚労省補助金	17,015,000	16,881,000	99.2%	令和7年度臨床研修活性化推進特別事業 13,698,000円 令和7年度歯科医師臨床研修指導医講習会(プログラム責任者講習会) 3,183,000円
	厚労省補助金事業研修会参加費	2,037,200	883,740	43.4%	令和7年度第1回指導歯科医講習会講師養成研修会 883,740円 令和7年度第1回プログラム責任者講習会 0円
	小 計	48,303,200	49,405,594	102.3%	
	合 計	95,863,876	96,966,270	101.1%	

	項 目	予 算	決 算	執行率%	備考
歳出の部	印 刷 費	3,000,000	2,364,120	78.8%	41巻1号(120部) 455,510円、40巻2号 457,380円 40巻3号(120部) 1,306,580円、ニュースレター制作費 144,650円
	発 送 費	50,000	54,362	108.7%	41巻1号 14,413円 41巻2号 15,798円、41巻3号 24,151円
	総 会 ・ 学 術 大 会 支 出	7,000,000	7,574,000	108.2%	第44回大会(明海大学) 7,574,000円
	事 務 費	800,000	816,399	102.0%	資料作成・印刷代 581,094円、封筒代 159,500円、消耗品・文具 8,936円、梱包材料代 99円、領収書 60,500円
	通 信 費	800,000	645,794	80.7%	会費請求送料 290,873円、宅配運賃 64,501円、市外TEL・Fax代 26,946円、切手・はがき代 177,390円、銀行手数料 60,564円、銀行インターネットバンキングシステム使用料 21,120円 残高証明発行手数料 1,100円
	会 議 費	600,000	1,634,215	272.4%	学術大会出張費1,948円、理事会 1,546,101円、三役会 37,950円、zoom年間契約料(2025年度、2026年度) 48,216円
	委 員 会 活 動 費	1,500,000	720,536	48.0%	編集・広報委員会 12,100円、選挙管理委員会 40,947円、教育能力開発委員会 286,878円、学術委員会9,900円、教育能力開発委員会シンポジウム謝金・源泉 133,644円 教育方略委員会シンポジウム謝金・源泉100,233円 学術委員会シンポジウム謝金・源泉 100,233円
	事 務 委 託 費	3,892,020	3,892,020	100.0%	(294,850円+消費税 29,485円)×12ヵ月
	税 理 士 報 酬	462,000	462,000	100.0%	(30,000円+消費税 3,000円)×12ヵ月、決算報酬(60,000円+消費税 6,000円)
	法 人 経 費	100,000	65,000	65.0%	登記手数料 65,000円
	租 税 公 課	100,000	70,000	70.0%	法人都民税70,000円
	雑 費	300,000	299,978	100.0%	弔電・生花代 20,098円、歯学協2025年度、2026年度年会費 100,000円、関係団体会合交通費 177,880円
	事 業 費	5,800,000	5,184,192	89.4%	歯科医学教育者WS 3,618,328円、ファシリテータ養成セミナー 1,169,129円 会員表彰 246,335円、白書 150,400円
	国 際 渉 外 費	800,000	0	0.0%	
	ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	400,000	354,420	88.6%	ホームページ管理費 342,100円、メールマガジン配信費 12,320円
	予 備 費	500,000	0	0.0%	
	日 歯 学 会 分 担 金	60,000	60,000	100.0%	日本歯科医学会専門分科会 2025年度分担金
	日 歯 学 会 連 合 会 費	938,400	935,700	99.7%	2025年度、2026年度年会費
	専 門 医 機 構 会 費	300,000	300,000	100.0%	日本歯科専門医機構 2026年度年会費
	厚 労 省 補 助 金 事 業 支 出	17,015,000	16,881,000	99.2%	令和7年度臨床研修活性化推進特別事業 13,698,000円 令和7年度歯科医師臨床研修指導医講習会(プログラム責任者講習会) 3,183,000円
	小 計	44,417,420	42,313,736	95.3%	
	周 年 記 念 事 業 積 立 金	500,000	500,000	100.0%	
	教 育 白 書 作 成 積 立 金	2,400,000	2,400,000	100.0%	
	次 期 繰 越 金	48,546,456	51,752,534	106.6%	繰越金内訳：現金口座 2,739,931円、普通預金 42,820,745円、定期預金 2,000,000円
	合 計	95,863,876	96,966,270	101.1%	

		特別会計	
内 訳	次 期 繰 越 金	51,752,534	<特別事業基金> 1,580,555
	現 金 口 座	0	<周年記念事業積立金> 7,294,200
	普 通 預 金	49,752,534	<教育白書作成積立金> 4,806,121
	定 期 預 金	2,000,000	13,680,876

<特別会計決算報告書>

■特別事業基金

(2025年6月1日 ~ 2026年5月31日)

	科 目	第7期決算	備考
歳入の部	前 期 繰 越 金	1,580,555	
	銀 行 利 息		
	合 計	1,580,555	

	科 目	第7期決算	備考
歳出の部	今 期 支 出 金	0	
	次 期 繰 越 金		
	合 計	0	

■周年記念事業積立金

(2025年6月1日 ~ 2026年5月31日)

	科 目	第7期決算	備考
歳入の部	前 期 繰 越 金	6,782,427	
	本 会 計 か ら の 積 立 金	500,000	
	銀 行 利 息	11,773	
	合 計	7,294,200	

	科 目	第7期決算	備考
歳出の部	今 期 支 出 金	0	
	次 期 繰 越 金		
	合 計	0	

■教育白書作成積立金

(2025年6月1日 ~ 2026年5月31日)

	科 目	第7期決算	備考
歳入の部	前 期 繰 越 金	2,406,121	
	本 会 計 か ら の 積 立 金	2,400,000	
	銀 行 利 息		
	合 計	4,806,121	

	科 目	第7期決算	備考
歳出の部	本 年 度 支 出 金	0	
	次 期 繰 越 金	4,806,121	
	合 計	4,806,121	